

Y I C看護福祉専門学校

令和7年度 第1回介護福祉学科教育課程編成委員会 議事録

日時：令和7年10月22日（水）15時30分～16時30分

場所：301 教室

委員出席者

- A 山口県介護福祉士会 会長
 - B 介護福祉学科実習施設 理事長
 - C 介護福祉学科 卒業生
- 欠席者なし
- 学内出席者
- D 校長
 - E 副校長
 - F 介護福祉学科 学科長
 - G 介護福祉学科教員（書記）

1. 校長挨拶

学校教育の中核でありますカリキュラムについて、皆さんのお意見を伺うということではありますが、介護福祉学科の入学志願者が減ってきている。その対応として、カリキュラムに関しては、学生の満足度を上げていくということが必要と思っております。特に日本人の学生が減っているのので、日本人の学生さんたちの満足度を上げていくというのが一つ、外国人留学生が増えきているので、それに対する対応というのも重要になってくる。日本語能力の向上、それから、もう1つは国家試験です。在留資格も関わってくるということもありますし、パート合格というのもあるので、その対応とか工夫で、留学生にも満足度を上げてもらわないと、各種の好循環が続いていかない。そういうところが重要だと思っている。そういったことで、日頃私たちが気づかない、外部の視点から色々意見を頂きたい。

2. 委員自己紹介

3. 議事

議長 規定第6条によりEが行う

- (1) 令和5年度卒業生及び職場の上司アンケート調査結果について…資料Ⅰ-1、資料Ⅰ-2

E : 資料に沿って説明

- (2) 令和5年度卒業生ホームカミングデーの実施結果について…資料Ⅱ-1、資料Ⅱ-2

F : 資料に沿って説明

<質疑応答>

F : 今の資料の説明について、ご意見ご質問があればお願いいたします。

B 委員：卒業生の方たちの充実感が1番意見として多いのは、入所者の方の感謝の言葉などが励みになっていると思う。以上です。

C 委員 : 卒業して5年で、ちょうど5年目の年になる。私は社会人からでしたが、同期の高卒の方たちは、大体リーダーや、主任をやっている。卒業後、就職先で上手に乗り越えていける子たちが、うまくやっていると感がある。キツイときはあるが、1年目、3年目、5年目と段階を踏んで、今頑張れていると思う。

(3) 令和6年度介護福祉学科教育計画進捗状況…資料Ⅲ

F : 資料に沿って説明

<質疑応答>

B 委員 : 留学生の数がどんどん増えてきている。授業を日本語で、ゆっくり進行していかなければならない。一方で、学生を確保していくのに、令和6年度から生産性の向上という言葉で動き出して、それに関連して、テクノロジーというキーワードが飛び交うようになった。県内の大学にも、テクノロジーの学科ができたりしている。介護の分野のおいても、テクノロジーは切っても切れないものになっている。新しいものに取り組んでいくべきだが、今あるカリキュラムを留学生に向けても丁寧にやっているといいかないといけない。介護機器の導入にしても、県が補助金を組んでおり、現場の施設事業者も手を挙げているが、入れればいいのではなく、ランニングコストの経営部分を考えていかないといいかない。テクノロジーや介護機器とは何かを学んでおくべきなのか、そうではないのかというところが気になる。

E : 現在在学している留学生の日本語レベルは、ほぼN2を持っている。1人インドネシアの女の子はN1まで取っている。国家試験の模試を行っても、すでに合格レベルまで来ている。在学中の学生たちであれば、ある程度付いて来られているが、現在2回目の入試が終わって、現時点で14名の合格が決まっている。日本語レベルを見ると、N3を持っていない子が多い。育てていかないといいかないので、入学前教育も含めて、最低でもN3を取らせてから4月に入学を。12月にもう一回検定があるので、そこでN3を日本語学校の先生と一緒に取り組んでいく予定。N3の子たちが入ってくることを想定すると、現行のやり方では本当に難しい。記録することにすごく時間がかかり、転記するだけでも綺麗に書けなかったりする。ある程度は記録物の電子化を進めていきたい。

D : テクノロジーに関して、何がテクノロジーで、どこまでの事を学校で行わないといけないのかという難しさがある。例えば、iPadがちゃんと使えます程度なら可能だと思う。文科省の人もそういったテクノロジーを入れるように、そういう教育をなささいという風になっているが難しい。お金がかかる。そういった機器は高額であり、学校で入れるのは非常に難しい。機器メーカーとタイアップしないと無理。

B 委員 : 本当にテクノロジーを使えるような人達。しかもそれは日進月歩で、5年もしたら

また新しいものが入っていないと難しい。今の介護現場に、どこまでそれがすぐに行けるのかというのがあり、そのあたりが壁になっている。本当にやろうと思ったどこかの機器メーカーと、タイアップして「人を育てます」など、うまく言いながらデモ機を入れてもらったり、そういう形でないとはすぐには無理かなと思う。ぜひどこかで導入されたら、「年3日ぐらい勉強で来てでもいいですよ」とそこで教えてもらってという循環があれば検討できるが、具体的には何もできていない状態。

D : 学校で購入するのは厳しい。現場で使うのでさえ、かなりの価格。ランニングコストとメンテナンスコスト両方がかかる。学校の現状は、車椅子を含め機器が古い。最先端に近いものは、現実的に購入しようと思えばクラウドファンディングかメーカーとタイアップするしかないと思っている。もし施設の中で教えてあげてもいいよというのがあれば、学生がそこに行って、「こういうものですよ」と知る機会があればいいと思う。

B 委員 : 今年度より県の助成金が大幅に増えた。記録システム、あるいは見守り機能など、今年度は相当な数の導入が山口県内で見込まれる。県からそういった情報をもらい、ぜひ学生に学ばせたいと言われれば、皆さん協力してくれると思う。県の方も助成金を出した以上は、有効活用のチェックをしていく義務がある。学校の先生や、学生が見てくれれば、チェックにもなる。いい意味でWINWINの関係になる。

E : なるほど。そういう形で、現場でみられるのはありがたい。学校で常に使うわけではなかったりするのです。

C 委員 : 歯科衛生士専門学校も行ったが、新しくない。歯科医院に行けば、レントゲンにしても、休日診療所も限られたことをするので、昭和の物を使っている。だが、原点は変わらない。原点ができていないと、今にはついていけないと思う。新しいものも便利で大切だが、原点を教えてくださいなところなので、そこは忘れてはいけないと思う。介護福祉士としての心を、学校が教えてくれるのでそれは日本人であろうと、留学生であろうと変わらないと思う。今言われた通り、外で学べることは、外で学べばいいこともたくさんある。

D : 学校は原点の物しか残せない。コストパフォーマンスがすごく悪い。授業によっては、1年に1回しか使わないものもある。原点の物しか残せないのが現実。だが、それでは追いつけないところがあるからいろいろと借りていかないといけないものが出てくると思う。

B : 実習生や特定技能で来られているが、必ず日本と同じ様に高齢化社会がある。その時に日本の介護が必要とされる。1番その価値に気が付いていないのは、残念ながら日本人である。

E :外国の方で、山口県で働きたい、その後は母国に帰ってそれを返したいという思いを多くの方が持っているので、向上心はすごくある。途中でくじけずに、10年は幸せに暮らしてほしいと思うし、生活していける場所がないといけない。来年度は県外からの入学予定もあるので、新たに環境を得ていかないといけない。

議題 123 に関しましてはたくさんのご意見をいただきました。まずは引き続きこれらの内容で運営してもよろしいでしょうか。(全員賛同)

ご承認いただきありがとうございます。

次회가 2 月に予定しておりますので、その頃連絡調整させていただきます。